

# 選手の用具は俺にまかせろ!

ホペイロ ◆ ベゼー八さんに聞く



今季、初めてブラジル体制を採った浦和レッズ。その中でも新しいスタッフとして登場したホペイロ=用具係。いったいどんな仕事なのだろう。選手にとって、何が違うのだろう。レッズにやってきた、ベテランホペイロ、ベゼー八さんに話を聞いた。

選手別にセットができている



## 選手がサッカーに集中するために

ー「ホペイロ」とは「用具係」ということは聞いていましたが、具体的にどんな仕事をするのですか。

ベゼー八 選手がサッカーで使うすべての用具を管理します。ジャージ、ウインドブレーカー、ハーフパンツ、インナーシャツ、インナーパンツ、Tシャツ、タオル、スパイク、アップシューズ、ユニフォーム…。選手が練習や試合に集中するために、いつでも用具がベストの状態にあるようにしています。

ーホペイロというと、スパイクを磨いている姿がイメージで浮かぶのですが。

ベ たしかにスパイクにかかる時間は長いです。選手にとって一番大事な用具ですし、選手によって、個性があるので手もかかります。

ーどんなふうに管理をしているのか教えてください。

ベ みがく時間は1足あたり3分ぐらいです。ぬれている場合は汚れを落としてから乾かし

ます。すぐに手入れをしない場合は、まとめてビニール袋に入れておきます。みがかくに乾かない方がいいからです。

乾燥機があれば一番いいんですが、外が雨で乾燥機もない場合は、サウナに入れておきます。ーサウナ! サウナで乾くんですか。

ベ 十分ですよ。いまレッズではサウナでやっ



手入れの終わったスパイク (合宿で)

ています。でも、スパイクによってそれぞれ乾く時間が違うので、しょっちゅう乾き具合を確かめに行かないといけません。乾きすぎると固くなってしまうんです。一度、アドリアーノと渡辺のスパイクを乾かしすぎたことがありました。次の日は練習試合だったのですが、2人とも履いて「?ベゼー八さん、固いよ」と言っていました。申し訳なかったです。

前の日に雨が降っていても、翌日選手にぬれたものは履かせません。以前、ヴェルディに来たころはサウナもなかったの、ドライヤーで1足ずつ乾かしていましたから、これは大変でしたよ。だから、乾燥機を入れてもらいました。

スパイク以外のアップシューズなどの手入れも同じです。

## 「手伝ってくれ」と言われて

ーいつごろから、この仕事を始めたんですか。  
ベ 子どものころはプロのサッカー選手になりたかったんです。でも、家にお金がなくて、小学校から帰ると働かなくてはなりません。とてもサッカーの練習をする時間はなかったので、プロになることはあきらめました。

18歳から昼間銀行で働いて、夜は学校に通っていたんですが、土曜、日曜にアマチュアチームの子どもを監督をしていました。あるとき、



力持ちです (合宿で)



晴れたときはスパイクを外に出して乾かす



サンパウロ州の大会で会ったコリンチャンス  
のコーチから「あなたのチームで欲しい選手が  
いる」と言われ、州に何回か選手を連れてコ  
リンチャンスの練習に行くようになったん  
です。

ある日、コリンチャンスのホペイロが来な  
かったことがありました。

ー え？ ブラジルでは子どものチームにもホ  
ペイロがつくんですか？

ベ そうですよ。それで仕事を手伝ったところ、  
「ずっとホペイロを手伝ってこないか」と言  
われたんです。平日は、学校も仕事もあるから、  
毎日働くことはできませんでしたが、土、日は  
コリンチャンスで仕事をするようになりました。  
20歳のころでした。

そのうち、トップチームの幹部が「君の仕事  
はいいじゃないか」と認めて、銀行を辞めて本  
格的に働かないか、と誘ってくれました。もう  
すでに2人のホペイロがいたんですがね。

本当はやりたくなかったんです。ホペイロの

仕事が大変なのは知っていましたが  
からね。でも結局銀行を辞めてコリン  
チャンスの正式なホペイロになりました。  
夜の学校はしばらく通い続け  
ましたが。

ー 本格的なホペイロのキャリアはコ  
リンチャンスで始まったのですね。

ベ 82年にサンパウロ州の代表チ  
ームから呼ばれました。83年  
にはブラジル代表チームについて、遠  
征にも行きました。そのころ、パ  
ルメイラスからもオファーがあ  
りました。代表選手やコーチがテレビや新聞で「ベ  
ゼーハの仕事はきれいだ」とほめてくれたので有  
名になったようです。

86年までパルメイラスで仕事をし、86年  
から91年まではサントアンデレにいました。  
その間、89年から91年まではマスターズ大  
会の代表チームの仕事などもしていましたよ。

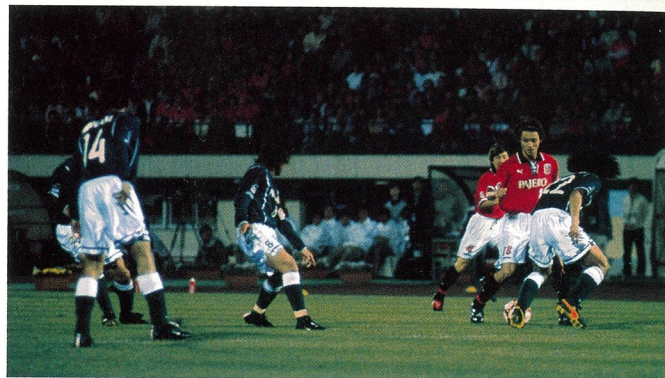
## 日本が好きだった

ーそして日本に来た訳ですね。

ベ 初めて日本に来たのは91年の11月29  
日でした。よく覚えています。当時、フラビオ  
さんがよみうりクラブ（現東京ヴェルディ）の  
フィジカルコーチをしていて、「ホペイロがい  
ないのは良くない」と私に声をかけてくれたん  
です。元々日本が大好きだったので、すぐに  
OKしました。

当時のよみうりクラブの仕事はきつかったで  
すよ。選手の着るものや荷物が多くて、24時  
間ほとんど仕事でした。睡眠は選手が練習して  
いるときだけでしたね。言葉もわからないし、  
カズ（三浦知良）やラモスの存在がずいぶん助  
かりました。

ー日本が好きだった、というのは。



5.6／東京V戦から

ベ 私は8歳から18歳まで日本人と一緒に住  
んでいたんです。子どものころ物売りの仕事を  
していたときに、市場で働いている人が「お前、  
この仕事やってみないか」と声をかけてくれた  
んです。収入が良かったのでそれを始めました。  
たびたび家にも呼んでくれて食事を一緒にする  
ようになりました。ときどき小遣いもくれました。  
結局、18歳になるまで実家にはほとんど  
帰らないで、その家に住んでいたんですが、そ  
の人が日本人だったんです。でも日本語はヴェ  
ルディに来てからです。



4.29／鹿島戦から

ーレッズから話があったときはどうでしたか。

ベ 去年の12月、やはりフラビオさんから誘  
われました。最初ははっきり返事をしなかった



アウエーでも（5.12／神戸戦）



## TODAY'S SPECIAL



「おい、忘れてるぞ」(合宿で)

んですが、「給料はいくら欲しい?」「今度、契約書を持って日本から人が行くから」とフラビオさんのペースでどんどん進んでしまいました。

ー ヴェルディにいたころの、レッズの印象はありますか。

べ いつもヨーロッパから選手や監督を連れて来ていて、このチームは強くなると思っていました。それとサポーターは素晴らしいと思っていました。ヴェルディには選手個人の女性ファンが多かったんですが、そういう人は選手が移籍するとそっちへ行ってしまう人が多いんで

フラビオコーチとは長い付き合い

す。レッズのサポーターは、選手の誰がやめてもチームのサポーターであることは変わらないでしょう。こっちへきて、大原の練習場や寮の前に男のサポーターがたくさんいるのにびっくりしました。ヴェルディでは、まずなかったことです。

96年の天皇杯で、ヴェルディが3-0で勝ったのに、レッズが「頑張ろう」とやっていたのにはびっくりしました。「あれ?どっちが勝ったのかな」と思ったほどです。素晴らしいサポーターだと思いました。

### 仲良くなければお互いに言えない

ー 実際にレッズで仕事をしてみて、どうですか。

べ レッズの良いところは選手がファミリーになっているところだと思います。来て、すぐの正月に全員で神社に行ったのを覚えています。

ー「仲良しクラブ」で、かえって良くないという声もあるんですが。

べ 仲が良いのが悪いということですか?そうは思いません。仲良くなければ、相手が悪いときにお互いに言い合えません。友達だから言えるんです。お前、遊



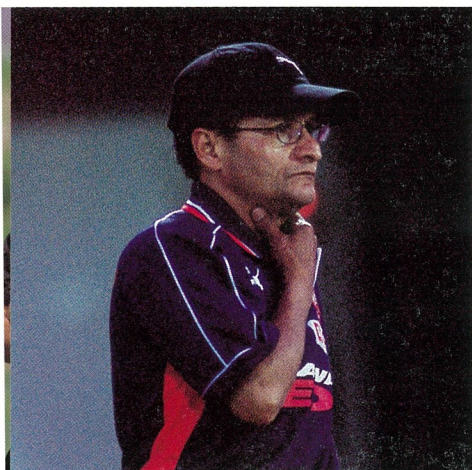
びすぎだよ、飲み過ぎだよ、と。誰かが良くないと、チームが負けます。それは嫌ですから、みんなお互いに言うんです。

ーではレッズの悪いところは。



きちんと折り畳まれたウェア





ベ …言っているのかな。大原の建物はアマチュアっぽいですね。驚きました。ヨーロッパの人はこれまで何も言わなかったのかな、と思いましたよ。

ー ホペイロの仕事をするのにレッズは環境としてどうですか。

ベ ホペイロの部屋（ホパリーア）がないこと、選手が自分でやることが多いことにまず気づきました。ホパリーアは寮の一室を改装して作ってもらいました。それと、練習着やジャージの管理があいまいだったので、全部それぞれに選手の背番号をつけました。こうすれば、なくなったり、人にあげたりすれば誰のがなくなっ

トレーニングルームを改装して作ったホパリーア



かすぐにわかります。そうなれば本

ウォーミングアップのときも心配そうに見守る

人の責任ですからね。

## 試合の長袖、半袖は多数決で

ー アウエーでの管理はどうするんですか。

ベ 用具は全部ホテルの自分の部屋に入れます。ロビーには置きたくありません。手元があれば安心だし、選手からリクエストがあってもすぐに取り出せます。用具を見ながら寝ます。ー 試合のときは。

ベ キックオフの3時間半前にスタジアムに入ってロッカールームの準備をします。選手はそれぞれ好きな場所がありますから、なるべくその通りにします。

ユニフォームは半袖、長袖の両方を用意しますが、着るときには、どちらか一方に決めます。長袖と半袖が交ざっているのは嫌いなんです。迷うときには選手に多数決で決めさせます。

5月6日のヴェルディ戦は迷いました。雨が降るのか、寒いのか、暑いのか、よくわかりませんでした。永井に聞いたら「どっちでもいい」。小野も「まかせるよ」。アップが終わるまでに決めないといけませんから、困りましたが、トゥットが上がってきて、「ベゼーハ半袖ね」と言ったので半袖にしました。

試合は前半も後半も最初の15分くらいは見ていられます。その後は準備でロッカールームにいます。

ー 日本のサッカーをどう思いますか。

ベ だいぶ良くなったと思います。最初はチームもアマチュアでした。

ブラジルは以前は世界のどこへ行っても負けませんでしたが、今は差がなくなってきました。カメルーンやガーナ、ナイジェリアといったアフリカ勢も強いし。日本はもっと強く変われる余地がありますが、勉強しないと他の国に抜かれてしまいますよ。

ワールドカップには行ったことがないんです。いつもテレビ。だから日本でワールドカップがやられるのはとてもうれしい。契約は1年ですけど、来年も日本にいて、ぜひ見たいですね。ブラジルじゃなくてもどこでもいい。

ー ご家族は。

ベ ブラジルに妻と2人の息子がいます。ブラジルでは小さいころはひいきチームも父親の影響が強いんですが、大きくなると変わってきます。私は父親がコリンチャンスファンだったんですが、自分がコリンチャンスに勤めていたときは、実はパルメイラスのファンだったんです。8歳の長男も、最初はパルメイラスのファンだったんですが、最近じゃ「パパ、パルメイラス、だめだよ。」と言うんですよ。今は、他のチームのファンです。5歳の下の子は、まだパルメイラスですけどね。



ルイス・ベゼーハ・ダ・シルバさん

1955年11月25日、ブラジルパラナ州生まれで、サンパウロに転居。20歳ころから名門コリンチャンスのホペイロとして働き、その後パルメイラス、サンパウロ州代表、ブラジルマスターズ代表、ブラジル代表などで仕事をする。91年から99年までヴェルディ川崎（現東京ヴェルディ）に所属。今季から浦和レッズのホペイロとして契約した。ブラジルに妻と2人の息子がいる。日本語はペラペラ。チーム内での呼び名は「鈴木さん」。